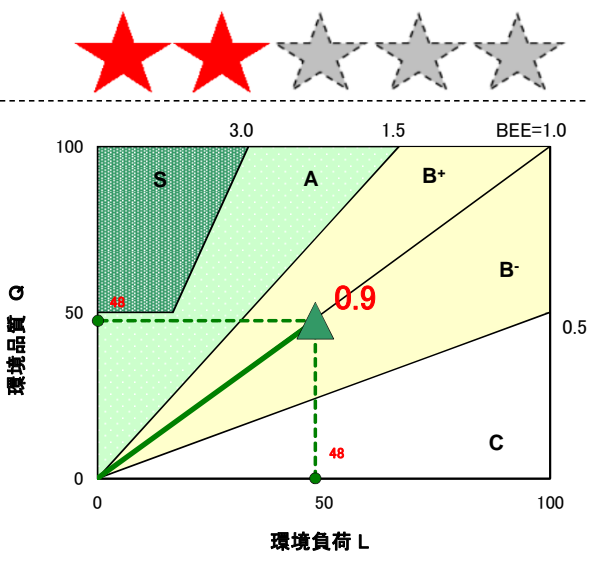


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	フジクラプレジジョン株式会社本社工場	階数	地上2F	 <p>【外観図】シートへ貼り付けしてください。</p>	
建設地	熊本県山鹿市鹿本町大字梶屋字下	構造	S造		
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	0人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年7月28日		
敷地面積	15,055 m ²	作成者			
建築面積	7,225 m ²	確認日	2017年7月28日		
延床面積	7,155 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 0.9

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)




排出率

88%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

77





【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

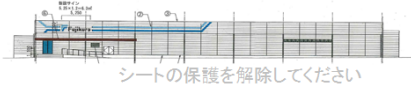
【重点事項4】 循環型社会の実現

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フジクラプレジョン株式会社本社工場	階数	地上2F
建設地	熊本県山鹿市鹿本町大字梶屋字下	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	720時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年7月28日
敷地面積	15,055 m ²	作成者	
建築面積	7,225 m ²	確認日	2017年7月28日
延床面積	7,155 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 88%

③ 上記+②以外の: 88%

④ 上記+: 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 **評価点 = 77**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 85.5**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 72.5**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 60.0**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 82.5**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

トップライトの新設、休憩室の確保、緑地の保存、増築部の省エネルギー性能に配慮。節水型機器の採用、駐輪駐車スペースを確保し、交通負荷抑制に配慮。

Q1 室内環境

既設無窓事務室にトップライトを新設し、昼光利用ができるよう努め、光・視環境に配慮。

Q2 サービス性能

男女別の休養室、自動販売機の設置で、快適性に配慮。

Q3 室外環境（敷地内）

既存緑地を保存し、生物資源の保存に配慮。

LR1 エネルギー

増築部の省エネルギー性能に配慮。

LR2 資源・マテリアル

節水型機器の採用で、水資源の保護に配慮。
フリーフロアの採用で、部材再生の取り組みに配慮。

LR3 敷地外環境

駐輪・駐車スペースを確保し、交通負荷抑制に配慮。

その他

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境					0.31		-		2.8
1 音環境				3.0	0.15				3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60				
2 界壁遮音性能				3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				3.0	0.20				
2 温熱環境				2.1	0.35				2.1
2.1 室温制御				2.1	0.50				
1 室温				2.0	0.38				
2 外皮性能				1.0	0.25				
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38				
2.2 湿度制御				1.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30				
3 光・視環境				3.3	0.25				3.3
3.1 昼光利用				4.6	0.30				
1 昼光率		昼光率: 西側事務室3.96%、中事務室(トプライト)3.55%		5.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		中事務室トプライト採用		4.0	0.40				
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00				
3.3 照度				2.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25				
4 空気質環境				3.4	0.25				3.4
4.1 発生源対策				3.0	0.50				
1 化学汚染物質				3.0	1.00				
4.2 換気				3.0	0.30				
1 換気量				3.0	0.33				
2 自然換気性能				3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33				
4.3 運用管理				5.0	0.20				
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御		全体が禁煙		5.0	1.00				
Q2 サービス性能					0.30				2.9
1 機能性				2.3	0.40				2.3
1.1 機能性・使いやすさ				1.6	0.40				
1 広さ・収納性				1.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33				
3 バリアフリー計画				3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30				
1 広さ感・景観				3.0	0.33				
2 リフレッシュスペース		休養室は執務スペースの1%以上+自販機の設置		5.0	0.33				
3 内装計画				1.0	0.33				
1.3 維持管理				2.5	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30				3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル床シート20年,壁:PBの上ビニルクロス貼20年,天井:PB貼30年		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途:給水管、汚水排水管、通気管:B以上,Eは不使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.6	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		汚水ピット等		4.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20				
5 通信・情報設備		情報アクセスポイント,ケーブルTVの設置,地下への精密機器の設置なし		4.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	事務所・工場用途共：階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.05	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.01	-	-	5.0
外壁ALCパネル							
2 自然エネルギー利用			4.0	0.12	-	-	4.0
トップライト							
3 設備システムの高効率化			2.9	0.62	-	-	2.9
[BEI][BEIm] = 0.81							
4 効率的運用			2.0	0.25	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
過半に節水コマ及び省水型機器の採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
- 塩ビシート							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
鉄骨躯体+LGS+仕上,設備の解体・分別可能,可動間仕切り							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
CO2排出率88%							
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車スペースの確保、管理車両駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの一部を満たす。広告物照明なし。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 **フジクラプレジジョン株式会社本社工場**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		77
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85.5	0.40	34.20
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				82.5	0.20	16.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数